研究A：
「沖縄県民の食生活・栄養摂取の変遷と健康状態の変化に関する文献的検討（中学生における食環境の変化と体格の推移）」
【背景】
「健康・長寿」の地域と言われながら男子の平均余命は全国26位に転落。
成人の肥満者割合は全国１位、最近では子どもの肥満も問題視されているが、県民の食事・栄養摂取や健康状態の経年変化を長期的にたどれる資料・文献がない。
ファーストフード、コンビニエンスストアの影響が大きいといわれているが、確認できる資料がない。
一つの自治体でありながら大きな島しょ地域であり、地域ごとに事情が異なる可能性がある。

【目的】
中学生の体格の経時的変化を既存データから確認する。
中学生の体格に地域差があるのかを確認する。
中学生が影響を受ける可能性があるファーストフード、コンビニエンスストアの店舗数の推移を確認する。

【方法と対象】
「学校保健統計調査報告書」（沖縄県教育委員会他）を利用。
中学生の地域ごとの平均身長、平均体重の推移を確認。
県内にある主なファーストフード店、コンビニエンスストアの店舗数の推移を確認。

【結果と考察】
中学生の平均体重は地域ごとの推移に特徴があることが判明。地域差の背景に何があるのか、食習慣や栄養摂取状況、食環境の調査が必要である。
ファーストフード店の店舗数は1970年代から直線的に増加しており、コンビニエンスストアは1980年代後半に出現、90年代に急増した。店舗数の推移が全国的な傾向と同じか、沖縄県に独特なものか比較検討が必要であり、中学生のこれら食料品店舗の利用する頻度など食習慣の調査が必要である。

研究B：
「那覇市の中学生における食環境が栄養素摂取量に及ぼす影響に関する検討‒GIS（地理情報システム）を用いて」

【背景・目的】ファーストフード店（FFS）やコンビニエンスストア（CS）といった食環境が子どもの肥満や栄養素摂取量に悪影響を及ぼす可能性が米国を中心に海外で報告されている。沖縄県では急速に肥満が進んでいると報告されており、子どもたちの肥満も問題となっている。沖縄県における肥満のリスクファクターの一つとして、戦後の米軍統治の影響による急激な食環境の変化が考えられ、特に子どもたちの肥満にはFFS、CSをよく利用することがよく指摘されている。しかし、実証研究は見当たらない。そこで、本研究では、沖縄県那覇市の公立中学校を対象に、GIS（地理情報システム）を用いて学校周辺のFFSおよびCSの店舗数を計測し、各学校平均の脂質と食物繊維の摂取量との関連を検討した。

【方法】まず、那覇市の公立中学校（17校）の周辺半径400m、800m内にあるFFS、CSの数を電話帳や各社HP等のデータをもとに集計した。次に「平成17年沖縄における小中学生の健康調査報告書」（琉球小児健康調査グループ）より、那覇市内の学校ごとの栄養素摂取量（脂質、総食物繊維）を算出し、学校周辺のFFSやCSの店舗数との相関を調べた。また、海外の先行研究では、地域の社会経済的要因が栄養素摂取量に影響を及ぼすことが分かっているため、平成12年国勢調査データより、学校周辺の完全失業者割合、高学歴者割合を算出して調整変数に用いて偏相関解析を行った。

【結果・考察】その結果、総食物繊維摂取量は学校から半径400m内のFFSの数と有意な負の相関があり、社会経済的要因の影響を調整しても同様だった。本研究は一地域を対象とした生態学的研究ではあるが、日本においても食環境が子どもたちの栄養素摂取量に影響を及ぼす可能性が示唆された。